

「初代園長先生」200回目の腹話術公演に園児が夢中

西原南幼稚園・小学校の初代園長・校長を務めた宮城義昇さんが6月3日、西原南幼稚園と小学校で腹話術の公演を開催しました。幼稚園の公演では、宮城さんが腹話術人形の相棒「ゴン太くん」と登場すると、腹話術の不思議なやり取りに園児たちは釘付け。ジョークをまじえた宮城さんとゴン太くんのやり取りに園児たちは大喜びでした。

宮城さんは教師時代に「子どもたちを楽しませられるような教師になりたい。」との思いから腹話術を学び始め、カルチャースクールなどを通じて腕を磨いたそうです。初公演から12年で、各地の保育所や幼稚園、老人ホームなどで公演を重ね、この日の西原南幼稚園と小学校の公演で200回を数えました。「200回目は初代園長・校長を務めたここでやりたいと決めていた。」と、節目の公演に達成感をにじませました。



平成23年度コミュニティ助成事業 桃原自治会に助成決定

宝くじの普及広報事業の一環にあたる「平成23年度コミュニティ助成事業」の助成団体に桃原自治会（喜屋武良規会長）が選ばれ、6月17日に通知式が行われました。桃原自治会には250万円が助成され、屋外放送設備



を整備し、他にテーブル、草刈機などを購入。地域のコミュニティ活動の一層の充実と活性化を図ることになりました。



まちの話題

平和を考える紙芝居と幻想的なパントマイムを通じて、命の大切さを考える —町立図書館主催の平和講演会—

紙芝居とパントマイムを通じて平和を学ぶ平和講演会「平和といのちの輝き～紙芝居とパントマイム～」が6月18日、町社会福祉センターで開催され、多くの親子連れが参加しました。公演に出演した壁画家で紙芝居作家の松井エイ子さんとパントマイミストの松井朝子さんは姉妹で、初共演となる舞台とのこと。第1部は松井エイ子さんが平和の語りと紙芝居の読み聞かせを行いました。「日本は戦争のない世の中を60年以上重ねてきた。本当に平和な未来を作るため、10年、20年、50年ともしっかりと平和な世の中にしよう」と願おうと、語りまし



た。また第2部では、松井朝子さんが音楽に合わせてパントマイムを披露。幻想的なショーに、来場者は目を奪われていました。

インターハイ沖縄県大会で西原高校が大活躍！

平成23年度沖縄県高等学校総合体育大会（インターハイ）の男子・女子バレーボールと女子バスケットボール競技で西原高校が優勝、6月6日に町へ優勝報告を行いました。バレーボール部は2年連続の男女アベック優勝、女子バスケットボール部は4年ぶり3度目の優勝です。バレーボール女子チームの大城飛さん（3年）は「力を合わせて戦えた。全国大会では最低でもベスト8」と、男子チームの金嶺守陸くん（3年）は「全国大会では過去の先輩の成績を超えられるようがんばりたい」と全国大会への抱負を語り、女子バスケットボール部の渡口愛子さん（3年）は「ライバル校との決勝に勝って嬉しい。新しい西原のバスケを見せられた」と優勝の喜びを語りました。



充実した消防サービスを目指して —消防の広域化に向けた住民説明会を開催—

現在県内に18ある消防本部を統合し、県全体を管轄とする大きな消防本部をつくる、「消防本部の広域化」を目指した住民説明会（東部消防組合消防本部主催）が6月21日、町中央公民館で開催されました。

「消防本部の広域化」は、現在の消防本部ごとに活動している消防体制を見直し、県全体で対応できることを目指して議論がされています。説明会では、火事や救急の通報に対して市町村などの区切りなしに、最も近くの消防署から出動できるようにすることが広域化の大きなメリットと説明がありました。

東部消防組合の當山健消防長は「限られた財源、人員でよりよいサービスを提供するために広域化が必要」と、広域化への理解を求めました。出席者からは「広域化のデメリットはないのか」「広域化することで、地域に根ざした特徴が薄れるのでは」などの慎重な意見に対し、課題解決への方向性が説明されました。



西原町人材育成会が町内の学生に学資金を貸与

西原町人材育成会（上間明会長）は、町の発展に寄与する人材の育成を目的として、町出身の優秀な学生・生徒で経済的理由により修学困難な者に対して学資金を貸与するため、6月6日に貸与生の通知書交付式を行いました。今年度の貸与生は、この春大学に入学した11名、高校に入学した1名を含む14名。貸与生には定められた学資金が毎月支払われ、学業に専念するための環境づくりが整えられます。



グループホームさわふじで防災訓練を実施

認知症高齢者の生活支援を行っているグループホームさわふじ（字呉屋）で、施設利用者などが参加した避難訓練を7月1日に実施しました。

訓練は、施設内で火災が発生した想定で行われ、利用者は職員の援助を受けながら避難しました。また実際に消防車両が出動、避難誘導や放水を行い、緊張感の漂う訓練になりました。訓練終了後は消防職員による消火器の使い方や自然災害についての講話があり、職員などが消火器の使い方を練習しました。



西原南小・幼稚園で津波と地震を想定した避難訓練を実施

地震、津波その他の災害から児童の生命を守り、安全を確保できるように、また災害に対する理解を深め、安全で自立的な態度を養うことを目的に、西原南小学校と幼稚園（新島悟校長・園長）が合同で、6月17日に避難訓練を実施しました。西原南小ではこれまで、火災・地震・不審者の侵入を想定した対応マニュアルをもとに避難訓練を実施していましたが、東日本大震災を受けて、新たに津波を想定したマニュアルを策定し、地震と津波が発生したことを想定した訓練を実施しました。

訓練では、地震が発生して校舎が危険な状態になり、その後津波警報が発令され、小学校の敷地が危険な状態になったという想定で、学校から高台にある西原ハイツ自治会集会所へ全校生徒が移動避難しました。児童らは頭を守るために帽子や教科書、タオルを手に取り、内履きを履いたまま時おり駆け足で避難所へ集まりました。訓練を終えた新島校長は、「頭で理解するより体で覚えることが重要。もし地震が起きても自分勝手なことをせず、今日のように放送や先生の指示を聞きましょう」と児童に呼びかけました。

